南丹市地域自立支援協議会・障害者計画及び
第3期障害福祉計画策定委員会 議 事 録

平成23年度第8回

(平成24年2月29日)

平成23年度 第8回南丹市地域自立支援協議会
障害者計画及び第3期障害福祉計画策定委員会議事録

1. 日時 平成24年2月29日(水)
開 会 午前9時30分 閉 会 午後11時15分
2. 場 所 南丹市役所 4号庁舎 2階会議室
3. 協議事項 別紙次第のとおり
4. 招 集 者 会長 徳川 輝尚
5. 出席委員 会 長 徳川 輝尚 (社会福祉法人京都太陽の園副理事長)
委員長 岡崎 祐司 (佛教大学 社会福祉学部教授)
副会長 吉野 隆 (南丹市身体障害者福祉会副会長)
委 員 林 克美 (口丹心身障害児者父母の会連合会会長代理)
委 員 仲 絹枝 (南丹市議会厚生常任委員会副委員長)
委 員 樋口三千男 (南丹市民生児童委員協議会副会長)
委 員 杉山 俊夫 (園部共同作業所所長)
委 員 小西 勉 (NPO 法人はびねすサポートセンター代表)
委 員 河原 信之 (南丹市精神保健福祉推進家族会)
委 員 加藤 貴雄 (ふない聴覚言語障害センター)
6. 欠席委員 田原委員、明田委員、西田委員、西川委員、田中委員、細見委員
7. 事 務 局 福祉事務所長 栃下 辰夫
八木支所健康福祉課長 山口 勝
日吉支所健康福祉課長 岡本 悦子
美山支所健康福祉課長 勝山 美恵子
社会福祉課課長補佐 小越 清美
社会福祉課課長補佐 高橋 伸夫
(株)サーベイリサーチセンター研究員 木村 靖子
8. 傍 聴 者 1名 (傍聴定員5名)

1. 開会あいさつ（徳川会長）

週末から山間部では雪が降り続いております。本日は年度末のたいへんお忙しいなか、早朝よりご出席いただきましてありがとうございます。また、岡崎先生はじめ委員の皆さまには、第8回の障害者福祉計画策定委員会に、急な日程の設定にも係わりませず、ご調整頂きご出席頂きたいへん感謝申し上げます。

この1年間たいへんハードなスケジュールでありましたが、本日の委員会で最終回の取りまとめを行いたいと考えております。委員の皆さまには、多くのご意見を頂戴し、南丹市らしい障がい者計画にまとまってきたのではないかと考えております。裏方で、本来の市の業務の上に計画策定の業務をお世話になった、事務局のみなさんには大変なご苦労があったかと思いますが、1年間お世話になり、心から感謝申し上げます。それでは、早速前回の続きの議論をお世話になります。どうかよろしく願いいたします。

（事務局）

ありがとうございました。それでは岡崎先生からよろしく申し上げます。

2. 開会あいさつ（岡崎委員長）

計画は大詰めという段階にきました。第8回の委員会ということですが、8回の委員会、数回の作業部会、シンポジウム、意見交換会等そして、年明けからの市民パブリックコメントをとおして、市民のみなさんの生の声をお聞きすることが出来ました。そして、生の意見、家族の方の切実な意見を聞き再度、短時間ではあっても討議の場を持った方が、より内容の充実した計画にまとめられるという判断に立ち、本日の議論を踏まえて原案を完了し、会長、委員長が再修正を行い答申としたいと考えています。この計画はパブリックコメント、シンポジウム、支援事業者へのワークショップ、ヒアリング等を通じて、通常の行政計画の枠を超え、市民の意見を計画に落とし込んだという作業を行いました。もちろん、計画内容に関してはまだまだ不十分な点は持っています。しかし、これまで積み上げてきた議論を反映しながら進め、素案も何度も練り直しています。また、まだまだ現行の制度施策にしばられている問題もあり、すべての方の要望にきちんと応えるところまではまだまだ届いていないのが現状だと思っています。国は自立支援法の改正を打ち出し、政権交代時の重要施策として進めてきましたが、現状ではそうなっていません。この南丹市の障害者計画が策定されれば次にどのように具体化、実行していくのかが大きな課題になっていきます。計画自体は、策定し、実施し、点検、評価しながらというのが基本であり、計画がつけられたら終わりというわけではありません。このあとの取り組みが重要だと思っています。今日は限られた時間ではありますが、率直に意見交換しながら進めたいと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

3. 協議事項1) 南丹市障害者計画・第3期障害福祉計画(案)について [説明:高橋(社会福祉課課長補佐)【資料1】に基づき説明]

障害者計画(案)【資料1】の全体の構成について説明する。
前回の配布資料から加筆・修正(赤字部分)している箇所、
要検討箇所について説明。

質疑応答

(委員)

「第2章2 計画の基本的視点」の赤字部分の「互いの微笑となって・・・」の表現について、違和感がある。

(岡崎委員長)

65頁の赤字の部分について、ご意見があればお願いしたい。

(委員)

セーフティネットのひとつとして相談支援と見守り機能があるのでは。カッコ書きの中にセーフティネットとあり、文章の前のほうに「ネットワーク」とあること含めて、もう少し文脈・文節・順序等の表現を工夫が必要ではないか。

(委員)

ここで、セーフティネットとすることに再考が必要ではないか。ここでは、見守り等となってくる。地域で支えていくような活動機能を評価するような表現がふさわしいかもしれない。

(岡崎委員長)

「第5章 計画の重点課題と方針」のタイトルであるが、事務局としてもわかりづらいとの見解があり、タイトルをどうするか再考する必要がある。第5章の内容については、前回とは項目の順序を変えて構成して掲載している。まず「包括的支援」があって、「親なき後・・・」等の支援を掲載している。ここに関してのご意見・ご質問があればお願いしたい。

(委員)

67頁の「3 重度重複障がい者(児)の支援の充実」の3つ目の「〇・・・」の文章について、「想い」の漢字の意図は? 「思い」のほうが適切ではないか。

(委員)

きちんとした言葉を選んだほうがよいのではないか。「思い」といえば広い意味がある。(思いは個々人で違いがあり、広がりがある半面あいまいな言葉)個人的に「想い」という言葉もあまり好きではない。客観的な表現に修正した方がよい。例えば「ニー

ズ」と言い換えるのはどうか。

(委員)

「障がいのある方」の「方(かた)」も必要ないと思う。わざわざ「方」という表現よりも、普通に「人」でいいのではないか。

(委員)

「なかなか」は普段づかいの日常語の表現であるため、修正した方がよい。「重度重複障害、難病等の自立した生活が困難な方・・・」も「社会的自立の困難な人」「社会生活が困難な人」等に表現を工夫されたい。

(委員)

66頁に戻るが、「1 生涯にわたる障がい者支援の包括的支援システムの構築」の7つ目の「O・・・」について、お見合いが嫌いな人もいるし、交際をするかどうかは自由である。家庭をもつことに関する支援とともに、子育て支援にもふれるといった文脈にできないか。

(委員)

前回の委員会においても、障がいのある人の教育の場に関して、当事者のご家族が相談できにくいといったことが言われていた。第5章で5項目を特記しておられるが、そのようなことも記載できないか。障がいのある人とその家族や介助する人が、思いを共有できる場が必要である。サービス提供に関する相談体制は確立されているかもしれないが、大きな意味合いでの相談体制が必要である。

(委員)

66頁の7つ目の「O・・・」は、異性問題に対する社会の理解と支援、結婚生活への支援、子育てへの支援などを盛り込むとよい。シングルマザーの問題も出てくると思う。

(岡崎委員長)

先ほどの67頁の「想い」は、例えば「ニーズ」などと客観的な表現に変えるということ。また「なかなか」といった日常的な会話用語は避ける。あと、障がい者の自立については、介助を必要としないような方向にということではなく、必要な福祉サービスを受けながらの自立ということを忘れてはならない。適切なサービスを受ける事により、社会生活が営め就労も可能にといったような意味合いが必要。

(委員)

障がい者を支援するシステムに関して、社会自体が、障がいのある人にとって生活しにくいという面もある。そういったことが重点課題として必要なのではないか。ちょっとしたことでのつまづきがある。例えば、手話通訳者がいれば、サポートがあれば難なく解決するといったようなこと。サポートできる多くの人が障がいのある人を

助けたり支えるというように、社会が変わるような働きかけが必要。新たに項目を設けるとすれば、そういう言葉が必要なのではないかと思う。例えば、前の施策のほうでは、「ボランティアの育成」といったことが記載されているが、重点課題にはならないのかなと思う。

(委員)

「障がい者への理解を深める地域的なアプローチ」といったことも必要ではないか。手話通訳者の範囲を超えて、私がやってあげられることは何かといった視点も大切である。

(委員)

交通機関の問題等についても、他の項目についても、これからの動きとして先取りしておいたほうがよいことは、掲載してよいのではないか。今、困りごととしてあがっているのは、家族へのケアや相談。性の問題は、あからさまには書けないが、抽象的にでもふれておきたい。

(委員)

南丹市には、結婚相談所もあり、身体障がい者だけでなく3障害含めて、また他の府県からの問い合わせがある。男女のお見合い的な相談を受けているが、女性の方が少ないという現状。そういうところも利用していただくとか、いろいろと協力もお願いしていきたい。

(委員)

66頁の赤字の下から2つ目の「○本市は移動手段として・・・」については、本当に実現できるのか。ぐるりんバスの本数も少ない。精神の人が運転している場合もあるが、危ない場合もある。公共交通機関は、むしろ減っているのが現状でありこのように明示してもいいものか。

(事務局)

この件につきましては、具体案があるわけではないが、南丹市の課題となっている。

(委員)

どんなによい施設が地域にできても、行く手段がなければ利用できない。これは、中心的な課題になるのではないか。

(委員)

総合計画では公共交通機関について、どのように明示されているかとも併せて、適切な表現で記載されたい。

(委員)

「公共交通機関として・・・」ここまで書いてあって大丈夫なのかと。

(事務局)

「デマンド」バス・タクシーの実証実験もしている。福祉と公共交通の連携を考えているところである。

(岡崎委員長)

地域福祉計画にもいえるが、計画に書いていることにより、取組みとして前に進んでいく。計画から押し上げていくということもある。ただし、公共交通機関の表現は、鉄道会社やバス運営会社等との兼ね合いもあるので、「移動手段の確保」といったように表現を変えてはどうか。あとは、福祉行政と議会で頑張っていただきたい。

(委員)

高齢者の事故が多い現状。やむを得ず運転している場合が多いので、自ら運転しなくてもよい、移動手段があると、事故の減少にもなる。

(委員)

今、交通の問題が出ているが、同じ税金を投入するのであれば、介護タクシーとか、自分が行きたいときに行きたい場所に行けるシステムの構築が必要ではないか。

(委員)

大阪市営交通（地下鉄・バス）は障がい者の移動とその介助者の移動が無料。京都では、高齢者は無料となっているけれども、切符を見せるときに、地域差や態度を実感する。南丹市では、お世話する人が世話できない状況にあるという。支援する人が支援できない。自分でタクシーに乗って帰らないといけないという状況は、大阪市と比べて違いすぎである。

(委員)

福祉タクシーや社協の移送サービスのことは書くのかどうか。動いているが本数が少ない。また、「自立支援協議会に出席する。」と言うと、「また作文をつくりに行くのだろう」との意見を聞くこともある。

(岡崎委員長)

この計画書に書いたことを足場にして、具現化していくということである。交通アクセスに関しては、京都の中山間地ということもあるが、日本全国で過疎地の交通政策をどうするのかという根本的な課題がある。移動する人からすると、移動する権利がある。移動する人権ということで、交通整備を押し上げていくということにはなる。足場としては、後退させてはならない問題である。

(委員)

この計画書を使って、足場にして、協議会で進めていきたい。努力目標として入れる必要もある。

(岡崎委員長)

この計画に記載がなければ、自立支援協議会にあがってこない。よって、大事なことである。また都市部と南丹市では違うということも押さえておく必要がある。

(事務局)

南丹市でもタクシー券は発行している。年間1万円の方と、2万円の方の2種類。

(岡崎委員長)

業界（タクシー業界、バス会社等）との関係もある。

(事務局)

市には地域公共交通会議と福祉有償運送運営協議会とがあり、ともに議論を進めていくことの重要性は議論されている。

(委員)

66頁、下から2つ目の交通アクセスについては、当事者として、すべてにおいてお願いしているが、採算が合わないという現実があるようだ。

(岡崎委員長)

第5章については、いただいたご意見のいくつかを整理して、「地域社会をアピールできるような項目」を入れるということで、計画を精査していく。第5章タイトルの「重点課題と方針」についても検討する。障がい者の権利擁護をどこに入れるのか。5章がいいのか。交通の権利。権利条約に則った地域生活の権利擁護。といったことについても検討する。

(委員)

66頁の最後の「○障がいのある人が・・・」の文章だが、「及び・・・」以降の文面を別立てにしたほうがすっきりするのではないか。

(委員)

「働く場や生きがい・・・」について、生きがいでいいのかどうか。精査する必要がある。

(委員)

計画の策定は、高い志でやらないといけない。現状でないものもきちんと課題としてあげその実現に向けて真剣に検討することが大切。

(委員)

そのための努力も必要になる。とくに交通問題、移動手段の確保。あと30年もすると、自分で移動できない人が(市民の)半分くらいになるのではないか。

(委員)

余談であるが、雪の中、無理をしてシルバーカーを押して買い物に行き、倒れて亡くなられた話がある。障がいのある人にとって、交通というものは、ものすごく大事である。都市部と同様にはいかないが、地域における交通のあり方を考えていく必要がある。

(岡崎委員長)

最終的な修正等については、私どもでさせていただきたい。本日の時点でお気づきになったことを足場に、掲げるべき方針は掲げる。

(事務局)

文言、表現等を修正して、ほぼ確定した案として、各委員に報告する。確定した案を市長への答申案とする。答申の日程は未定。詳細については事務局で加筆、修正を行い、委員長、会長の確認の上、答申の準備に入る。策定委員会としてはこの会議が最終となる。副会長から閉会のご挨拶をいただきたい。

4. その他 特になし

5. 閉会あいさつ(吉野副会長)

皆さん、お疲れさまでした。本日が最終の策定委員会となり、短時間ではあったがたいへん有意義な議論ができた。特に、パブリックコメントの意見を計画に反映させる丁寧な議論ができた。今後は、詳細の修正の上、答申に向けての作業をお願いする。今後も、自立支援協議会の活動にご協力頂きますようお願いして誠に簡単ですが、終わりの言葉に替えさせていただきます。本日はご苦労さまでした。

会議終了 午前11時15分